

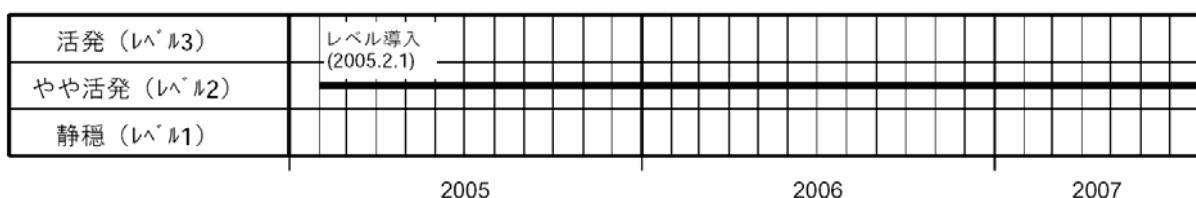
口永良部島

○ 火山活動評価：やや活発な状況（レベル2）

火山性地震や火山性微動がやや多く、火山活動はやや活発な状態で経過しました。

2005年2月1日の導入以降、レベル2が継続しています。

火山活動度レベルの推移



○ 概況

・噴煙活動

監視カメラでは新岳・古岳の噴気は観測されませんでした。

・地震・微動活動（図2、図3）

火山性地震はやや多い状態が続いており、月回数は168回（6月：157回）でした。火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。火山性微動は、2006年10月からやや多い状態が続いており、月回数は13回（6月：27回）でした。

・地殻変動（図1、図4）

GPS連続観測では、昨年9月以降見られていた新岳の膨張を示す傾向は、昨年12月以降鈍化しています。

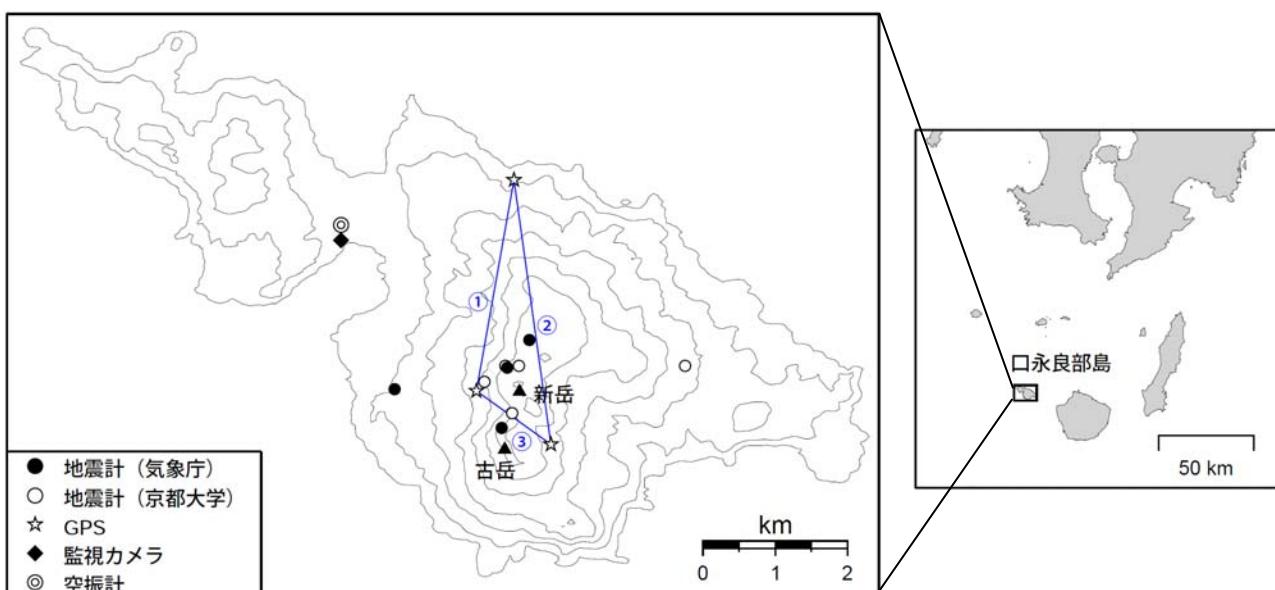
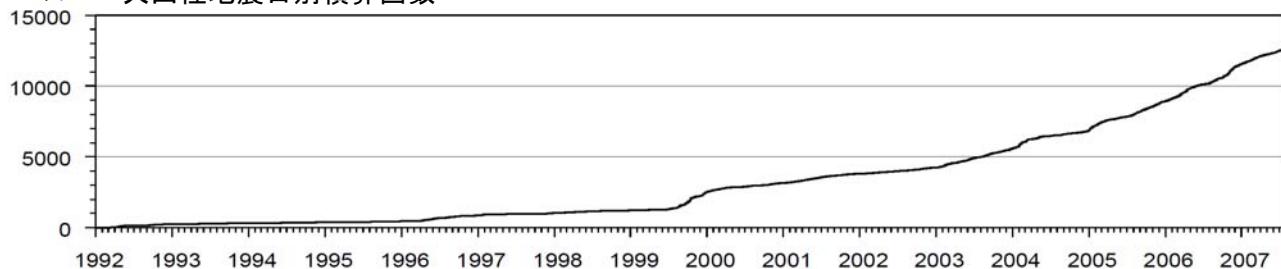


図1 口永良部島 観測点配置図

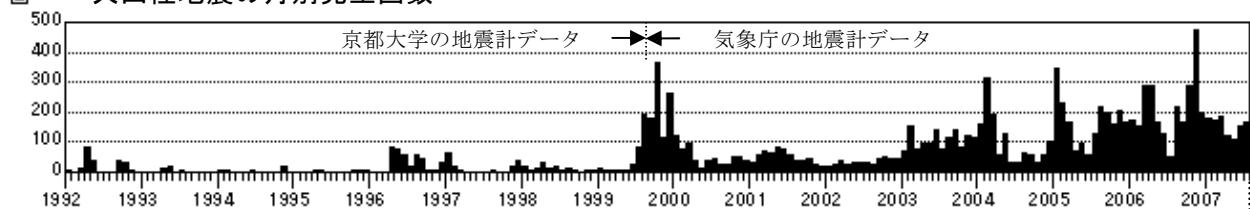
※この資料の作成に当たっては、気象庁のデータの他、京都大学のデータも利用して作成しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用しました（承認番号：平17総使、第503号）。

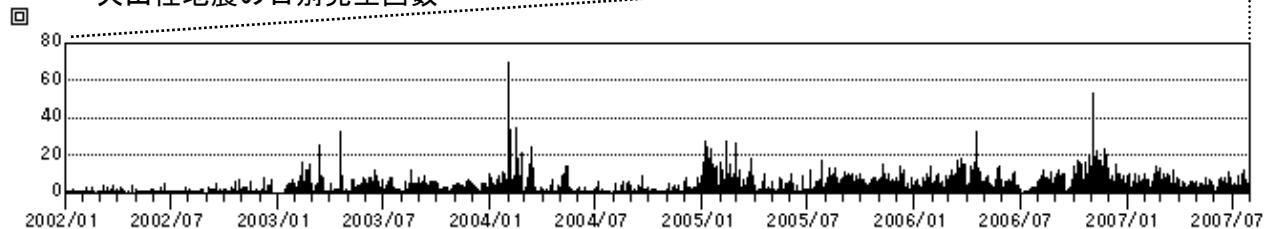
回 火山性地震日別積算回数



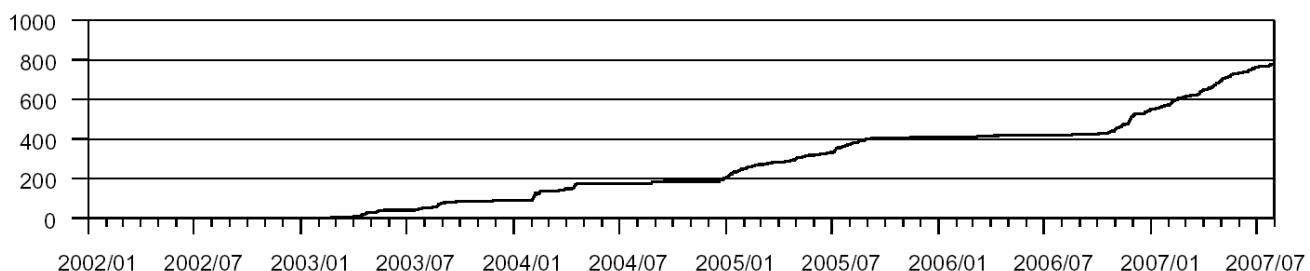
回 火山性地震の月別発生回数



回 火山性地震の日別発生回数



分 火山性微動の積算時間



分 火山性微動の日積算時間

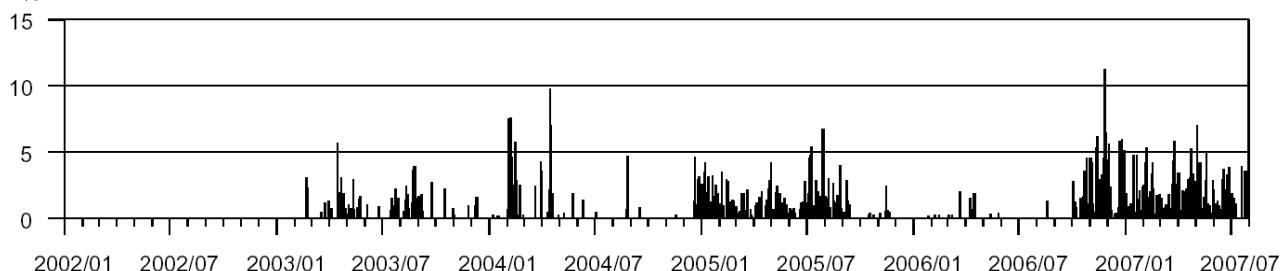


図 2* 口永良部島 火山性地震・微動活動経過図(1992年1月1日～2007年7月31日)

- ・2005年1月以降、火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いています。
- ・火山性微動は2003年2月から時々観測され、2006年10月以降、やや多い状態で推移しています。

*1982年1月1日～1999年9月12日及び2005年12月15～28日までは京都大学のデータを使用しました。

*2002年12月22日～2003年1月11日まで地震計1の機器障害のため欠測しました。また、2005年7月9日～9月18日、2005年11月5日～12月14日までは地震計1の機器障害のため、地震計3で回数を計数しました。

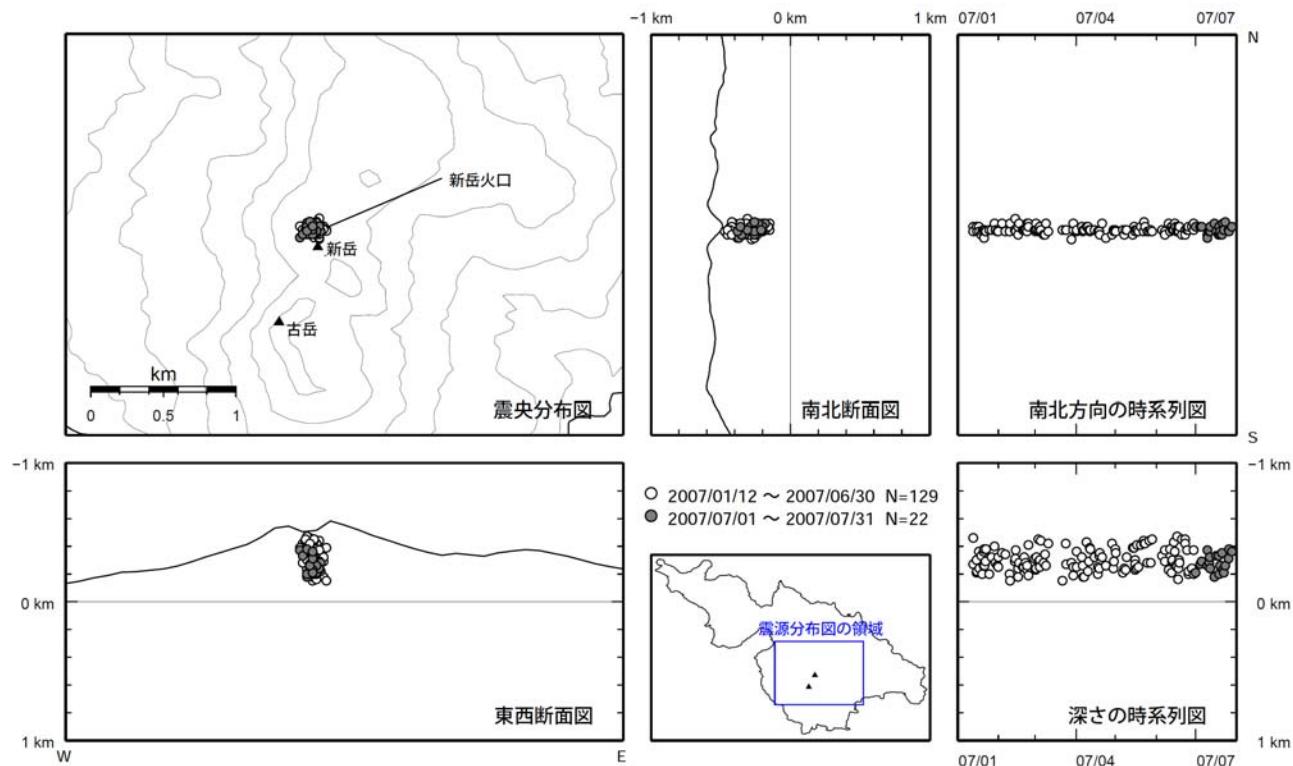


図3※ 口永良部島 震源分布図(2007年1月12日～7月31日)

火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。

* 1月12日から京都大学のデータも用いて震源を求めています。

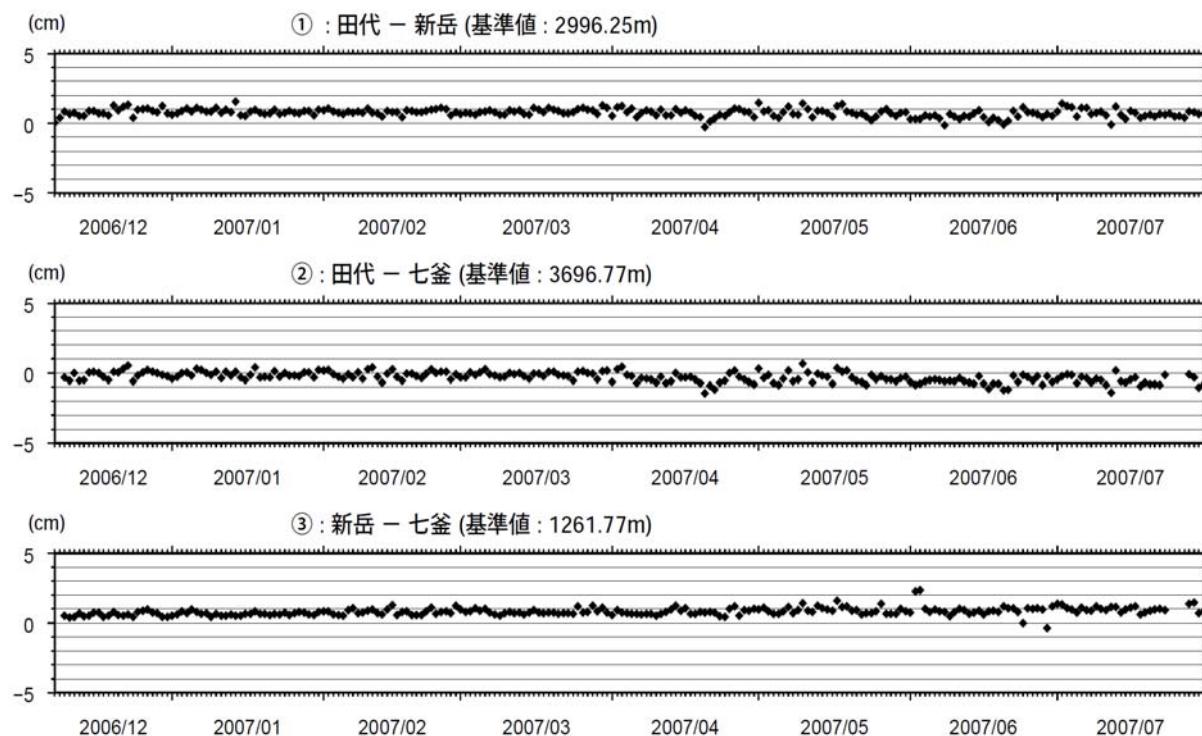


図4 口永良部島 GPS連続観測による基線長変化(2006年12月8日～2007年7月31日)

火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

この基線は図1の①～③に対応しています。